

鬼	北上市立	館
	の	
だ	よ	り
第4号		



■東寺・国宝兜跋毘沙門天立像〔複製〕の公開

常設展示室の北方鎮護の毘沙門天のコーナーに、京都・東寺毘沙門堂の本尊、兜跋毘沙門天立像（国宝）の複製が展示公開されました。この像は、かつて平安京羅城門の楼上に安置され、京外と都城の境を見守っていました。

■常設展示室に新資料

京都・東寺
(教王護国寺) 国宝兜跋毘沙門天立像〔複製〕公開

1月30日、常設展示室のよみがえる北の鬼コーナーに京都・東寺の国宝兜跋毘沙門天立像の複製が新たに加わりました。このコーナーでは、これまで、岩手県内の毘沙門天をパネルで紹介してきましたが、このたび、所蔵先である東寺のご好意により複製が許可され、展示の充実をはかることができました。国宝の複製は、大変希なことです。



毘沙門天は、仏を守護する四天王の一つ多聞天の別名で、北方鎮護の像としてまつられました。鬼の館周辺で毘沙門天をまつる社寺としては、北上市の立花毘沙門堂、東和町の成島毘沙門堂や江刺市の藤里毘沙門堂などが良く知られ、北上川の東岸に多くまつられています。

毘沙門天は甲冑を身にまとい、左手に宝塔、右手に宝棒か戟を持ち、邪鬼を踏みつけている姿が一般的ですが、兜跋毘沙門天は毘沙門天のうち西域風の甲冑を着て、地天の掌上に立っている異形の像をさして呼ばれているものです。

東寺の兜跋毘沙門天はサクラの一木造で、像高は189.4cm（地天を含むと223cm）、中国の唐時代に作られ、平安時代に日本に運ばれてきた請来像です。寺伝によると、当初、平安京の南の端にあった羅城門の楼上に安置され、門の倒壊により東寺にうつされたとされています。

頭上に四面宝冠をかぶり、長い外套のようなものと鬼や紋様が施された胸当・腰当の冑をつけています。右手に戟を持ち、腰をやや左にひねって立つその足を半身の地天が支え、両脇に尼藍婆・毘藍婆の二鬼が侍しています。

魏氏桜桃という中国産の桜材で作られていると言われ、日本に伝わった仏像のなかでは他に類のない美しさを持ち、その大きさと完成度の高さにおいて際立った優秀作です。

公開されたこの像は、東寺と当館でしか見る事ができないとあって、公開前から問い合わせが相次ぎ、公開後も県内外から、多くのお客さまをお迎えし、好評をいただいています。

みなさまの来館をお待ち致しております。

◀ 兜跋毘沙門天と地天の両脇に侍する二鬼

毘沙門天に踏まれる邪鬼は、仏に仕える鬼。この二鬼像は、きちんと正座し、胸の前で腕を交差させ、指で印を結ぶ。ふくよかな身体つきやつぶらな瞳に、恐ろしい鬼の面影はない。

常設展示室の 一部を展示替え

—ナマハゲ^{たわらめん} 俵面^{わらにんぎょう}や 藁人形^{わらにんぎょう}を加えて充実—

比沙門天^{びしゃもんてん}立像^{りゅうざう}（複製）の公開と同時によみがえる北の鬼コーナーに新たに5点の資料を追加しました。

これらの資料は、平成6年の開館以後に、鬼の館に収蔵された資料で、いずれも、疫神や来訪神^{らいぼうじん}を異形^{いぎょう}に表現しています。人々の、“目に見えないが、存在感は確実にある何者か”を鬼形に表現した好例です。

また、鹿児島県^{しもこしま}の下甕島^{しもこしま}に伝わる年越しの行事トシドンの面は、島外では、ほとんど見るのできないものです。

ナマハゲ俵面

寄贈：秋田県河辺郡雄和町沖村 沖村自治公民館
秋田県の雄物川^{おものがわ}流域は、ナマハゲ（ヤマハゲ）行事に木彫の鬼面ではなく、藁^{わら}でつくった面をもちいる地域があります。沖村もそのひとつで、米俵^{こめたわら}のふた（棧俵^{さんだわら}・タラバシ）に長い角^{つの}をはやした面です。1月15日の晩、これをかぶり、藁^{わら}の身をまとったナマハゲが家々を訪問します。

かつてのナマハゲは、鬼形とは限らず、このような正体不明の異形な姿として表現されていました。

トシドン面 鹿児島県下甕島本町地区

トシドンは、下甕島の大みそかの晩に家々を訪れる神で、本町のトシドンは、シュロの髪、長くとがった鼻に特徴があります。この行事は、子どものすこやかな成長を願って行われるナマハゲに似た行事です。

トシドンは、正月の餅を持って、就学前の子ども



のいる家を訪れ、日頃の生活態度や行いをたしなめ、良い子には真っ白なもち米でつくった餅、悪い子にはサツマイモの粉ともち米を混ぜてつくったコッパン餅^{こっぱんもち}を授けます。子どもたちは、トシドンに見守られながら、また子どもたちもどこかにトシドンの目を感じながら育ちます。

下甕島には6つの地区にこの行事が伝承されています。

コト八日の藁人形〔復元製作〕

寄贈：北上市立花 八重樫利吉氏

コト八日^{えきびょう}は、疫病^{えきびょう}よけのまじない事を行う日で、立花地区では、鬼形に作った藁人形^{わらにんぎょう}を家の入り口に建てる風習がありました。現在では藁人形はつくりませんが、「疫病除」と墨書きした小旗^{こぼり}に、団子^{だんご}を下げて門口に立てる内容で伝承されています。

虫送り人形「オニ」

虫送りは、夏、大量に発生して農作物に害を及ぼす虫^{ひとがた}を、人形につけてムラ境に送り、その災厄を逃れようとする行事で、岩手県の県北地方で盛んに行われています。

この人形は、安代町^{あしろちょう}横間^{よこま}で7月下旬に行われている虫送りの藁人形^{わらにんぎょう}で、男女1対の鬼形に作られ、横間集落をひとめぐりしてから川に流されます。

休館日変更のお知らせ

～休日の利用が便利に！～

4月1日から鬼の館の休館日が次のように変わります。これにより、土・日曜日は全開館（年末年始・館内整理日をのぞく）となり、振替休日も開館いたします。

◎新しい休館日

- 月曜日（祝日の場合は開館）
- 国民の祝日の翌日
（土・日・月曜の場合は開館）
- 上記開館の振替日
- 年末年始（12月28日～1月4日）
- 館内整理日（11月27～30日）

※振替休館は平日とし、年間の振替日を瓦版や受付でお知らせいたします。

詳しくは鬼の館までお問い合わせ下さい。



平成7年度鬼の館下半期事業として次のような事業を行いました。

◆教育普及活動

(1) 鬼っこわんぱく講座

《鬼の昔話をきく》

10月14日(日)

みちのく民俗村の古民家を会場にして行われました。81名が参加。

《鬼の面づくり》

平成8年1月21日(日)

空き箱や紙袋を活用しての鬼の創作面づくり。いろいろな鬼の面が作られました。小学生18名が参加。

(2) 鬼学講座

10月8日(日)・22日(日)・11月19日(日)

鬼と人間とのかかわりをあらゆる角度から勉強しました。

◆鬼の館芸能公演

岩崎鬼剣舞 10月22日(日)

飯豊鬼剣舞 11月26日(日)

勇壮で躍動的な鬼剣舞…。年間を通し、人気の高い芸能公演でした。

◆企画展

(1) 第2回企画展 一岩手の河童たちー

10月15日～11月26日

岩手に伝承されている伝世品や伝承地・玩具を紹介し、河童の姿を追求したものです。展示資料点数132点

(2) 平成7年度新収集資料展

平成8年3月17日(日)～5月6日(月)

中国の仮面や鬼玩具・鬼追い鬼・獅子頭など48点を展示。

◆共催事業

「にっぽん鬼ZZフェスティバル96」(2月3日) 福豆節分会を兼ねた鬼ZZウィーク開幕宣言が鬼の館屋外ステージで行われました。飛勢太鼓・こども鬼剣舞・岩崎鬼剣舞・なまはげ太鼓の公演と福もちが撒かれ、にぎわいをみせました。



〈鬼の面づくり〉できあがった面を発表



〈鬼学講座〉修了証書をうけとる受講生

平成7年度の主な新収集資料

[寄贈]

- ・獅子頭 3点 岩手県 高橋富芳さん
- ・高千穂神楽陶面 1点 東京都 佐藤正行さん
- ・鬼怒川川治温泉鬼の絆天 1点
栃木県 八木沢昭雄(藤原町長)さん
- ・河童陶・河童陶面 各1点
岩手県 小川延海さん

- ・鬼追い鬼(頭) 1点 鹿児島県 迫 杉雄さん

[購入]

- ・中国江西省追儺面 30点
- ・べらぼう凧 2点
- ・木彫河童 5点
- ・南部盛岡凧 1点

平成8年度 鬼の館事業計画

企画展. 1
「みちのくの鬼たち」
7月7日～8月18日

企画展. 2
「異形の神・カマド神」
10月13日～11月24日

月	常設展示	企画展示	講座・教室	芸能公演	その他	休館日
4月	鬼の原像を探る	3/17(日) 平成7年度新収集資料展	鬼学講座 (全6回) テーマ 鬼の姿を探る 対象 一般市民 定員 40名	午後1時30分～ 鬼の館野外ステージにて 28(日) 口内鬼剣舞		1日、8日 15日、22日
5月		6(月) 平成7年度に鬼の館に寄贈あるいは購入された資料を展示。中国の追儺面や九州の鬼追い鬼、秋田のべらぼう風など47点。	鬼っこわんぱく講座(全8回) 対象 小学生 定員 40名 土面づくり、キャンプ 鬼剣舞体験	5(日) 岩崎鬼剣舞 26(日) 御免町鬼剣舞		7日、8日 13日、20日 27日
6月			5/5(日) おおきい鬼の絵をかこう 16(日) 鬼っこわんぱく講座① 30(日) 鬼学講座①	23(日) 煤孫ひな子剣舞	9(日) 第3回北上市大乗神楽大会	3日、10日 17日、24日
7月		7(日) みちのくの鬼たち ～伊藤卓美版画展～	13(日) 鬼っこわんぱく講座② 25(木) 鬼っこわんぱく講座③	28(日) 川西念仏剣舞 (衣川村)		1日、8日 15日、22日 23日、29日
8月		東北地方、特に岩手の民俗芸能を題材にした版画展。 18(日)	10(土)～11(日) 鬼っこわんぱく講座④ 18(日) 鬼学講座②	11(日) 滑田鬼剣舞 25(日) 二子鬼剣舞		5日、12日 19日、26日
9月			8(日) 鬼っこわんぱく講座⑤ 21(土) 鬼学講座③	22(日) 鬼柳鬼剣舞		2日、9日 17日、18日 24日、25日 30日
10月		13(日) 異形の神・カマド神 農家の台所に祀られた異形の神の実像をさぐる。	20(日) 鬼学講座④	27(日) 相去鬼剣舞		7日、11日 14日、21日 28日
11月		24(日)	9(土) 鬼っこわんぱく講座⑥ 23(土) 鬼学講座⑤			5日、6日 11日、18日 25日、26日 27～30日
12月						2日、9日 16日、24日 25日、27日
1月			15(水)～16(木) 鬼学講座⑥ 25(土) 鬼っこわんぱく講座⑦			28～4日 6日、13日 16日、20日 27日
2月			2(日) 鬼っこわんぱく講座⑧			2(日) 福豆節分会 3日、10日 12日、17日 24日
3月		25(火) 平成8年度新収集資料展 5/5(月)	<p style="text-align: center;">Information</p> 各講座の内容、申込方法等については鬼の館までお問い合わせください。 北上市立鬼の館 0197-73-8488			

※都合により内容・日程が変更になることがあります。お出かけ前にお確かめください。

鬼学ノート

北の大地に鬼を見た

----- 津軽鬼紀行 -----

平賀昭士

1 はじめに

鬼の館では、人と鬼との関わりについて学ぶ、鬼学講座を年5回開いています。そのうち1回は、鬼を現地に訪ねる鬼ツアー方式をとっています。

平成7年9月23日午前8時、鬼の館前から鬼学講座生一行24名を乗せたバスは、わくわくするような期待を胸に一路津軽の鬼たちをめざしました。

2 「鬼コ」を訪ねて

平成6年6月、鬼のテーマ博物館として開館した鬼の館。その展示室入口頭上に「鬼」がおります。その鬼は「鬼コ」の愛称で呼ばれている弘前市撫牛子八幡宮鳥居の「鬼コ」のレプリカです。

鬼ツアー最初の目的地は、その「鬼コ」を訪ねる事でした。「鬼コ」は交通量の多い道ばたにある八幡宮の鳥居に緑色の体に赤フンドシ、顔はふくふくとして口は大きく、ツノはちょっぴりで、どことなく愛嬌があり、恐ろしい形相ではありません。むしろ親しみ深い感じさえします。膝に手を乗せ両肩で鳥木を持ち上げ一見お相撲さんタイプにも見えました。

さて、2日間に渡る鬼ツアーの現地講師として、青森県埋蔵文化財調査センター調査第4課長大湯卓二先生を八幡宮にお迎えしお話を伺いました。それによりますと、「鬼コ」に関する文献はなく、又、何故こういう物を作ったのか地元の人さえはっきり分からないということです。しかしよく調べて見ると、この「鬼コ」が掲げられている鳥居の部分は普通額束が掲げられ、その額束の事を撫牛子の大工は鬼板と呼ぶ者がいたということです。その鬼板の代わりに、鬼の像を木製でつくり掲げたものかもしれないということでした。「鬼コ」についての性格は、おそらく村に悪いものが入って来ないように侵入を防ぎ、地域の安全を守るというような信仰ではない

かと思われるということでした。「鬼コ」は魔除け、地域の安全を守ってくれる一種の守護神ということです。今回は弘前市種市にある熊野宮の「鬼コ」も見学しましたが、そこでは昔、子供が堰に落ちるのを守ってもらうために鳥居に掲げたと言われていました。この「鬼コ」が鳥居に飾られるようになったのはいつ頃から明らかではなく、津軽の記録にはありません。ただ撫牛子八幡宮の「鬼コ」は、明治の初め頃、高山玄南という人が村の依頼をうけ作ったという伝承があるといえます。これが最初でこれを近隣の村でまねたのかもかもしれないということです。



撫牛子八幡宮の「鬼コ」

「鬼コ」は津軽平野一帯30数箇所に分布し、その他の地域に見られないということです。「鬼コ」の伝播は、岩木山を中心とする山岳信仰圏のなかに存在するものと考えておりますということでした。

3 「鬼神社」を訪ねて

バスは岩木山のふもと、アップル畑を左右に眺め弘前市鬼沢字菖蒲沢の「鬼神社」を目指しました。杉木立ちの中に、鬼神社と額束が掲げられた大きな鳥居や卍の鳥居をくぐって参道を進むと岩木山を背に東面を見据えた「鬼神社」が大きな鎌や鍬等の額束奉納物が掲げられ鎮座しておりました。又、その境内には権現様、馬、灯籠、魚等の奉納物が目を引きます。氏子の須藤晃良さんに神社の扉を開けてもらいましたがその中でも奉納物がぎっしりで信仰の深さを伺い知る事が出来ました。

鬼神社の伝説によると、昔この村に正直な百姓弥十郎というものが岩木山の中腹、赤倉山に薪を採りに行きました。ところが大人(鬼)が現れて相撲を取って遊ぼうと誘われたため、やむなく日がくれるまで相手になりその日はそのまま家に帰りました。

すると夜中に大音響とともに薪が家の前に積みまれました。それからというもの、弥十郎は大人と仲良くなり、弥十郎が開墾に困っていると、大人は蓑笠を着て手伝ってくれたり、渇水した田に水を引いてくれました。その水は赤倉山から引く大工事でした。喜んだ村人は鬼神・大人に感謝して村の名を鬼沢と改め、そしてその水を「逆さ水」と呼びました。ところが弥十郎の妻に姿を見られた大人は山に帰っていきました。後に村人はこの地を開拓した大人を農民の神として祀るようになりました。旧暦5月29日の祭日には、境内でニンニクが売られ、そのニンニクを買って行って家の門口に下げて魔除けにする、5月の節句には菖蒲を家の軒下に挿さず、節分でも「鬼は外」と豆をまかないしきたりになっています。このように「鬼神社」の鬼神は善神的な守護神として信仰され、農耕と深く結びついているものと思われまますということでした。このように農耕神の鬼神を見る時、この神の本来的な性格は、大人が最後に山に帰るといふ伝承にもあるように、民間に伝わる農神が春に種を持って里に降り、収穫が終わると秋には山に帰るといふ山の神、田の神の去来パターンと考えることも出来るのではということでした。



鬼神社の鎌や鍬の額束

それにしても境内、神社内の奉納物の多さ大きさには農業を守り育ててきた津軽びとの深く熱い信仰心を見る思いでした。

4 岩木山神社を訪ねて

岩木山頂が良く見える鳥居の前から、ゆるやかな石畳の参道を登ると、桜門・拝殿・奥門・端垣（ともに国重文）が極彩色を放ち、その華麗さは「奥の日光」とも言われる津軽三大農業神の岩木山神社が（岩木山神社・猿賀神社・鬼神社）鎮座しておりま

した。その桜門の手前の門柱に、魔除けの「狛犬」が上からと下から見据えておりました。（日本「鬼」総覧で野村純一氏はコマオニと書いている）津軽び



上下を向く岩木山神社のコマイヌ

との岩木山や神社によせる深い思いや信仰心を感じながら国民宿舎いわき荘で、津軽の鬼たちとの出会いを心ゆくまで語りあい言い知れぬ安らぎを覚えたものでした。

5 三内丸山遺跡を訪ねて

2日目の目的地は、5千年の眠りから覚めた三内丸山遺跡でした。栗の木を植え山の幸や海の幸を自然の摂理を貫き、約1500年間に渡って平和郷を営々ときずきあげてきた三内丸山の人々。その約5万㎡という巨大な共同生活遺跡に圧倒されました。北の大地に、悪いものが入ってこないように、悪い事が起こらないようにという先住民の平和の祈りが聞こえてくるようでもありました。それは津軽の農耕を支えた大人鬼神、悪霊や悪病が入ってこないようにという「鬼コ」信仰と全く無縁なことではなからうと思ったものでした。

6 鬼ツアーを終えて

津軽びとのやさしさと強さ、津軽びとのじょっぱりと豊かさ、それは土と共に生き、海と共に生きた縄文人の証しなのであろうか。上や下、いろいろの角度、方位、土・木・鉄文化や津軽の風土など、鬼たちに接する広い視点をも学ぶ好機となりました。

「鬼神社の秋田県にある分社も見学したい。鬼ツアーを続けてほしい。」そんな参加者の願いを胸に鬼ツアーを無事終えられたことに感謝したい。

北の大地に活躍した鬼さんたちよありがとう。
（ひらが あきし・北上市立鬼の館主幹兼館長補佐）

事業日誌

- 10/1 鬼っこわんぱく講座：鬼の絵本発表会
- 10/3 山口県宇部市議会 11名視察
- 10/4 鬼の館消防訓練実施
- 10/5 佐藤正行氏から高千穂神楽陶面1面寄贈
- 10/8 第3回鬼学講座：春来る鬼をめぐって
講師 須知徳平氏 10名
- 10/10 鬼の絵本作品展(～10/15)
- 10/11 河童展資料収集、陸前高田市・鈴木、石川
- 10/14 鬼っこわんぱく講座昔話を聞こう 81名
- 10/15 第2回企画展：岩手の河童たち(～11/26)
- 10/22 第4回鬼学講座：剣舞のすべて 講師 熊谷保氏 22名
- 10/25 宮崎県延岡市議会 6名視察、
福島県表郷村教育委員会 3名視察
- 10/26 文部省、東庁10名視察
- 11/1 博物館等連絡会議(博物館)出席、主幹
- 11/2 互理町立郷土館運営審議会委員研修 15名
- 11/7 博物館登録11号(10/30付け) 愛知県刈谷市議会 15名視察
- 11/8 愛知県知多市議会 9名視察
- 11/9 藤原町町長から鬼怒川川沿絆天1枚寄贈
- 11/10 小坂町郷土館運営委員研修 11名
- 11/10 沼島市議会 9名視察
- 11/15 鬼の館協議会、委員研修(致道博物館、いでは文化記念館
～11/16 月山あさひ博物館・出羽山歴史博物館・山寺芭蕉記念館) 2/4
11/15 河童のぬりえ展(～11/26) 2/6
11/18 石越町文化協会 20名視察 2/7
11/19 花巻市郷土芸能保存協議会 24名視察、第5回鬼学講座
：訪れる神々 トシドンとナマハゲ 講師 門屋光昭 16名 2/13
11/21 前橋市議会13名、大船渡市議会24名、群馬市議会15名視察 2/14
11/22 公衆電話館内に設置・企画展図録「岩手の河童たち」J500部発行 2/15
11/23 瓦版11月号発行 2/15
11/26 芸能公演：飯盛鬼剣舞 2/20
11/27 収蔵庫燻蒸(～11/30) 2/22
12/2 コンコード市 8名視察 2/26
1/10 仙台市博物館視察・主幹、石川 2/26
1/17 博物館等連絡会議(文学館)出席・主幹 2/29
1/21 鬼っこわんぱく講座：面づくり 18名 3/14
1/25 瓦版1月号発行 3/17
1/29 国宝兜歌毘沙門天立像(複製)1体設置 トシドン面1面 3/19
虫送り囃人形2体 コト八日わら人形 ナマハゲ仮面1体 3/23
1/30 山口市議会 4名視察 3/26
2/3 につぼん鬼っこフェスティバル始まりの儀式
岩崎保育園、岩崎・岩崎新田小学校・岩崎鬼剣舞・
なまはげ太鼓・飛脚太鼓公演。豆まき、餅まきを行う。 3/27
3/31 山田町文化財調査委員研修 9名
気仙沼市議会 12名、日中友好協会 3名視察
文化財等取扱講習会参加(県博物館)、
鈴木・石川・千葉(～2/9)
小坂町郷土館、康楽館視察・主幹
自治省 2名、県地方振興課 1名視察
県南青少年の家 26名、尾花沢市議会 10名視察
鬼の館見学会 20名
迫 杉雄氏から鬼追い鬼1点寄贈
福島市農業農村活性化推進委員会 20名視察
北村長三郎氏からべらぼう麻2点寄贈
八重樫利吉氏からコト八日の囃人形1点寄贈
自治省 2名、県庁 3名、中国河南省 3名視察
鬼の館協議会(7年度報告・8年度計画)
平成7年度新収集資料展(～5/6)
自治省 2名、県庁 3名、中国河南省 3名視察
国宝兜歌毘沙門天立像(複製)公開記念講演会
：東寺教学部主事 藤田昭弘氏
かまど神調査、仙台市、鈴木
南部盛岡鳳購入、千葉

入館状況

H7.4.1～H8.3.31 開館日数 296日				単位：人
	小中学校	高校生	一般	計
個人	4,594	516	36,091	41,201
団体	478	143	11,966	12,587
無料	942	60	1,845	2,847
計	6,014	719	49,902	56,635

利用案内

開館時間 午前9時から午後5時まで。

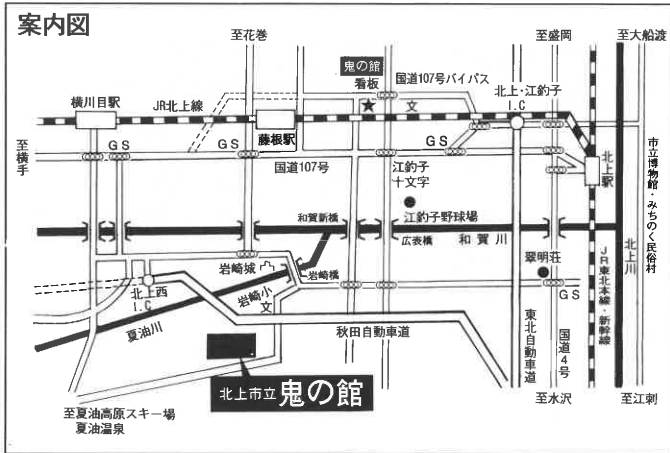
なお、入館は午後4時30分まで。

- 休館日**
- ・月曜日(国民の祝日の場合は開館)
 - ・国民の祝日の翌日(土・日・月曜日の場合は開館)
 - ・上記開館の振替日
 - ・12月28日～1月4日まで
 - ・館内整理日(11月27日～30日)

- 入館料**
- 一般 300円(250円)
 - 高校生 200円(150円)
 - 小中学生 150円(100円)
 - ()内は20人以上の団体料金。

市内の学校の児童生徒が学習活動で申請により利用するとき、毎月第2・4土曜日に利用するときには入館料が免除になります。

- 交通案内**
- ・JR北上駅西口よりバスで25分。
煤孫経由横川目行、瀬美温泉行「岩崎橋」下車徒歩10分。夏油温泉行(季節営業-5月～10月)「鬼の館前」下車。
 - ・JR北上駅より車で20分。
東北自動車道北上江釣子I.C、秋田自動車道北上西I.Cからともに車で15分。



北上市立鬼の館だより

第4号 1996.3.31

編集・発行 北上市立鬼の館

〒024-03 北上市和賀町岩崎16地割131番地

TEL・FAX 0197(73)8488